

滋賀県立高等学校在り方検討委員会の検討状況について

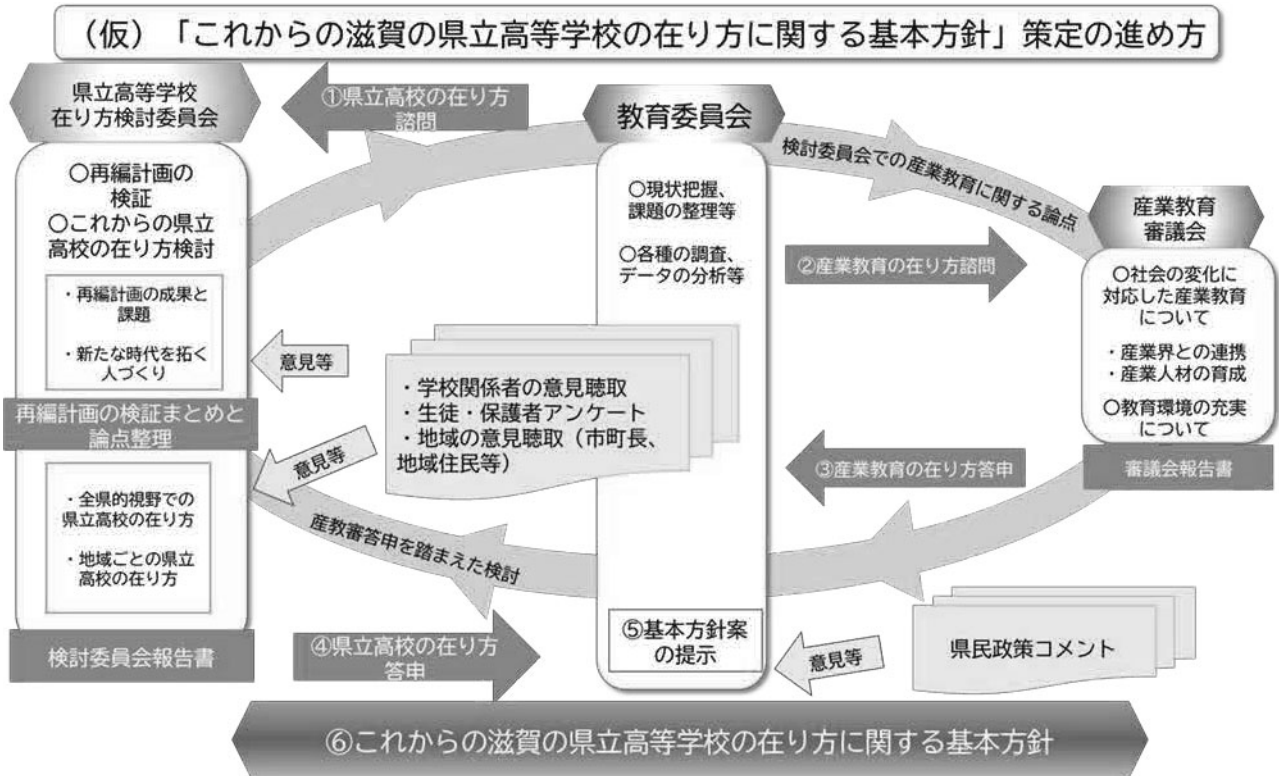
1 経過、および在り方検討委員会との関係

	産業教育審議会	在り方検討委員会
6月16日(水)	第4回会議：答申素案の検討	
6月18日(金)		第6回会議：産教審の答申素案の提示
7月20日(火)		第7回会議：答申素案の検討
7月30日(金)	第5回会議：答申案の検討(最終)	
10月頃		第8回会議：答申案の検討(最終)
	↓ 答申	↓ 答申
	県教育委員会	
12月～3月	基本方針※(原案) → 県民政策コメント実施 → 基本方針策定	

※(仮)「これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針」

【策定趣旨】概ね10年から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高校の在り方について、全県的視野で基本的な考え方を示す

【対象期間】令和4年度から令和13年度の10年間



これからの県立高等学校の在り方について 答申(素案)概要

～(仮)『これからの滋賀の県立高等学校の在り方に関する基本方針』～

令和3年7月
滋賀県立高等学校在り方検討委員会

背景 〇人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報化、技術革新の進展などの急速な社会情勢の変化への対応
策定趣旨 〇概ね10から15年先を見据えて、新しい時代を切り拓く人づくりのため、県立高等学校の在り方について、全県の視野で基本的な考え方を示す
対象期間 〇令和4年度から令和13年度の10年間



これからの滋賀の県立高校の在り方に関する基本的な考え方

本県教育の教育理念 未来を拓く心豊かでたくましいひとづくり
育成すべき生徒像 生きる力(自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等)がある
高等学校の役割 ・生きる力を育む場
・好奇心や探究心を更に発展させる場
・「答えを見つける」から「課題を見つけて解決に向けて考え行動する」教育の場へ
魅力化の視点 〇多様性のある社会、人口減少社会への対応を、小・中・高・大・社会の連続性の中で捉え、ICTを活用し、持続可能な形で実施する
〇森・川・里・湖が水系でつながり、近江の心が根付いた「滋賀」ならではの学び、それぞれの県立高校でその学びを地域とともに推進する

これまでの主な県立高校改革

- H18 県立普通科高校通学区域全県一区制
- H24 県立高校再編計画策定

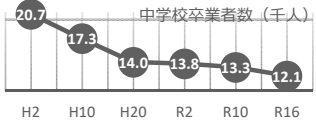
現行再編計画の総括

- 〇統合新校設置(長浜北・彦根翔西館)
 - ・学校統合による地域全体の学校活力向上
 - ・社会的の涵養、部活動の活性化
- 〇総合単位制高校設置、職業系専門学科改編等
 - ・不登校傾向が改善し卒業
 - ・分かりやすい学科体系、地域連携強化
- 〇全県一区制度のもと、国や県の指定事業等の活用や地域、大学等との連携による魅力ある学校づくりの一定の進展
- 普通科高校や人口減少地域の学校の更なる魅力化、発信力の強化が必要
- 計画策定過程で地域との双方向の議論が必要

県立高校をとりまく現状と課題

◆生徒数の減少

- ・H2, 3卒のピークから▲7,000人34%減
- ・R16, 3卒は更に▲1,700人 H2, 3卒から42%減



◆社会情勢の変化

- ・少子高齢化、人口減少社会の到来
- ・第4次産業革命、Society5.0
- ・グローバル化
- ・withコロナ、afterコロナと新しい生活様式

◆国の動き

- ・学習指導要領改訂: 社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び
- ・新時代に対応した高等学校教育の在り方スタイルポリシー策定、普通科改革等

◆特別な教育的支援が必要な生徒の増加

- ・中学校の特別支援学級から高校へ進学する生徒増加(H20(13%)→H30(54%))
- ・高校で特別な教育的支援が必要な生徒の割合は増加傾向(H22(2%)→R1(5%))

将来の社会の姿

- ◇人口減少と高齢化の更なる進行
- ◇第4次産業革命を通じたSociety5.0の実現
- ◇大規模災害などの発生リスク
- ◇コロナ禍を経た新しい生活様式の定着
- ◇持続可能な社会の実現(SDGs)
- ◇多様な価値観が尊重される社会 等

想像はできるが予測できないことが起こりうる

高校への希望や期待

～アンケートや意見聴取から～

◇生徒の立場から <中高生7,688人回答> <大学生等>

- ・文武両道に励みたい
 - ・将来のことをじっくり考えたい
 - ・校舎をリニューアルしてほしい
 - ・生徒や先生が団結できる行事があるとよい
 - ・インターネットを活用した授業を増やしてほしい 等
- (県立高校1, 2年生)
〇在籍している高校の満足度(全日制)
満足82%(友人関係、部活動、授業)
不満18%(授業、校風、施設・設備)

◇保護者の立場から <保護者6,894人回答>

- ・子供の可能性を拓けてやりたい
- ・基礎から学べるようにしてほしい
- ・学力向上だけでなく、人間性を高めたい
- ・オンライン授業等に力を入れてほしい 等

- (中学1, 2年生保護者)
〇子供に進学させたい高校
県立高校88% 県内私立高校4%
〇高校に期待すること
自分の進路希望や興味・関心等に応じた科目選択ができる63%

◇地域社会の視点 <市長会、町村会、市町教委等>

- ・地域活性化に貢献する生徒を育ててほしい
- ・地域にとって高校の存在は大きい
- ・在り方検討で高校再編とせず、地域の声を聴いてほしい 等

◇産業界の視点 <県内企業関係者等>

- ・専門的に教育して、高校卒業してすぐに社会に役立つ人材を育ててほしい
- ・企業等と連携することが必要 等

◇教職員の立場から <中学校・高校管理職、中堅教諭等>

- ・人間性を高めるため、授業はもちろん、部活動や学校行事も大切に、いろいろな経験ができる教育活動で工夫したい
- ・一定の規模で教員数も充実した状況が必要 等

◇卒業後の進学先の視点 <大学、短大、専修学校等>

- ・ディスカッションをする際に、根拠のある意見を述べる力の育成が必要
- ・大学に進学を希望する際、自身の関心や思考を見つめおして学問と接続していくことが必要
- ・職業系専門学科では現場体験など実体験の機会を増やし、職業へのあこがれを育むことが重要 等

◇その他学校関係者の視点 <スクールカウンセラー、塾等>

- ・対人不安の強い生徒達が同じ教室で学ぶことの難しさがあり、先生方が様々なスキルを身に付けられるよう支援が必要
- ・中学生にとって高校に触れるという体験は大きく、オープンスクールのように直接情報を届けることが大事 等

目指す姿 ■高校別 ◆県域全体

- ①生徒が自ら主体的に学び「生きる力」をつけることができる
→◇すべての生徒に自分を高める学びが提供されている
→◇多様な人との出会いやコミュニケーションを通じて深い発見できる学びが提供されている
- ②生徒が世界につながり活躍するための力をつけることができる
→■グローバル人材や科学技術人材が育成されている
→■大学等と連携した高度な専門的学びが提供されている
→◇ICTを活用した対話的・協働的な学びが実現できている
- ③生徒同士が切磋琢磨し成長できる
→■学校行事や部活動が活性化している
→◇学校でこそ育まれる人と人とのつながりを意識した場が提供されている
- ④場所や時間を選ばない学びができる
→◇ICTや外部人材を活用し、所属する学校の枠にとらわれない柔軟で多様な学びが提供されている
- ⑤生徒が社会から学び自らの進路を考えることができる
→■地域の教育資源や人々に関わる学びが提供されている
→■産業界と連携した学びが提供されている
- ⑥障害のある者といない者が互いに学び合いを尊重できる
→◇共生社会の実現に向けた教育が着実に進んでいる
- ⑦生徒が自らに合った学びを選択できる
→■それぞれの県立高校ならではの魅力や特色が人々に理解されている
→◇県内のどの地域でも様々な学びが提供されている
→■基礎学力充実、不登校、日本語学習等に対応する学びが提供されている
- ⑧教職員が生徒一人ひとりに愛情をもって向き合いサポートできている
→◇授業改善が進むとともに教職員自身の人間性や創造性を高め効果的な教育活動ができている

滋賀の県立高校づくりのコンセプト

多様な生徒一人ひとりが、「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進める

1 「滋賀」に学ぶ

滋賀の自然、歴史、文化、人、産業等を教育資源とした学びの充実

- ◎知識・技能を活用し課題を解決する確かな学力の育成
- ◎自立した社会人を育てるキャリア教育の充実
- ◎生徒の学ぶ意欲を育むための多様な学習ニーズへの対応

1と2を支える環境整備

- ◎多様な学びの提供や人とのつながりの創出等、生徒数減少への対応
- ◎多様な学びを実現するICTを活用した教育の提供
- ◎生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
- ◎持続可能な推進体制の構築

2 「滋賀」で学ぶ

魅力と活力ある取組を明確にし、見える化する学校づくり

◎普通科の特色化(全県一区制度継続)(普通科系専門学科を含む)

普通科	普通科	コース
全日制 29/44校	〇〇科	類型
普通科系 専門学科	普通科系 専門学科	系列
普通科系 専門学科	総合学科	系列

◎職業系専門学科等の特色化・高度化

職業系 専門学科 総合学科	職業系 専門学科 総合学科	類型
		系列

◎定時制/通信制の役割への対応

オンラインの学校づくり ↓ 魅力発信

取組の方向性

- ア 確かな学力の育成
→「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善 [目指す姿①⑧]
→「読み解く力」の育成 [①]
- イ キャリア教育の充実
→小中学校での学びの連続性、高校卒業後の進路との接続、地域の教育資源の活用を意識した体系的・系統的なキャリア教育の推進(学校運営協議会の設置、連携コーディネーター配置、コンソーシアムの構築、外部人材活用等) [①⑤]
- ウ 多様な学習ニーズへの対応
→特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実(通級指導等) [⑥]
→不登校生徒支援、日本語指導が必要な生徒対応の充実 [⑦]
→基礎学力充実のための取組の工夫 [⑦]
- エ 普通科の特色化(普通科系専門学科を含む)
→新しい学科やコース、類型の例: 地域探究、学際融合 等 [①②③⑤⑦]
→総合科、普通科系専門学科への改編 [①②③⑤⑦]
→普通科系専門学科(音楽・美術等)の学びを継続するための工夫 [⑦]
→高校の特色のPR(HPや動画配信等の充実、学習成果の発信等) [⑦]
- オ 職業系専門学科・総合学科の特色化・高度化(滋賀県産業教育審議会協議)
→Society5.0社会に対応した人材育成 [①②③⑤]
→地域や産業界と連携した産業界・職業系学科の魅力伝える方策 [⑦]
→産業界の推進にかかる環境整備 [⑤⑦]
- カ 定時制/通信制の役割への対応
→多様な生徒の進路保障等を見据えた学びの場の提供 [③⑦]
- キ 生徒数減少への対応
→地域と連携・協働した学校づくり(地域とともに目指す姿を具体化) [⑤⑦]
→多様な学びを実現するための少人数学級等の工夫 [⑦]
→学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携についての研究 [③]
- ク ICT活用
→すべての県立高校でICT教育環境の充実・更新 [①④]
→ICT活用のコンテンツ等の共有化 [①④]
→教職員のICT活用力を高める研修の充実 [①⑧]
- ケ 生徒の学びを支援し、自ら学び続ける教職員の育成
→人材の確保、研修の充実 [⑥⑧]
→持続可能な推進体制の構築
→地域と連携・協働した学校づくり(連携コーディネーター配置、学校運営協議会の設置等) [①⑤]
→働き方改革の推進、経営方針の明確化 [⑦⑧]
- サ その他
→モデル校等による取組内容の実践・研究
→高等専門学校設置に関する知事部局との連携

将来を見据えた整理

- 1 県立高等学校と私学との関係について
◇滋賀の高校教育について公私が建設的に議論する定期的な協議の場が必要
- 2 県立高等学校の学校規模について
◇規模の大小にはそれぞれメリット・デメリットがあり、それぞれに特徴がある
◇地域の実情に応じた様々な規模の高校において、生徒の力を伸ばす教育が必要
- 3 将来に向けた議論の必要性について
◇高校は地域活性化等の多面的な機能をもつ→市町等の関係者との議論が必要
◇小規模校の方策として少人数分割授業や部活動等の学校間連携の検討が必要
- 4 入学者選抜の在り方について
◇時代の変化とともに良い選抜方法の課題整理と検討が必要

(参考)基本方針策定後の進め方(案)

- 1 基本方針に基づき(仮)魅力化プラン作成(たたき台→意見聴取→案作成)
(県教育委員会)
全県の視野からの学校配置の提示
・多様な選択肢の提供
・特徴的な学科等の配置
※必要に応じて(仮)地域別協議会の設置
(将来を見据えた検討→プランに反映)
(学校)
各校の目指す姿の検討
・教職員による主体的な具
体化策検討
・中学校や地域との意見交
換や先進事例の研究等
- 2 県教育委員会 個別の実施計画作成
・(仮)魅力化プラン案に基づき対象校を選定
- 3 学校 個別の実施計画に基づく具体的検討と経営方針策定・公表
・経営方針(生徒育成方針、教育課程・実施方針、生徒募集方針等)

2 第6回在り方検討委員会において委員から出た主な意見

■職業系専門学科の在り方

- 中学生は3年生になって初めて進路のことを考えており、進路選択に向かう期間が短い。滋賀県の子どもたちは、普通科の認知度は高く公立志向が強いのが特徴。総合学科も同様だが、職業系専門学科はそれぞれがもっと個性ある学びを打ち出していけばいいのではないか。
- 中学生の段階で将来のビジョンがイメージできないことが、職業系専門学科が選ばれにくい理由の1つではないか。逆に言うと、職業系専門学科を選択する生徒の多くは学びたいことが明確になっており、近年そのような傾向が強くなっていると思われる。
- 保護者の中には、まだまだ大学進学を目指すなら普通科というイメージが残っている。高度人材育成を担いつつ、かつ、例えばSSH指定校等との連携した学びも実施している職業系専門高校を作っ
て拠点化する等、新しい職業系専門高校の在り方に関しても示した方がいいのではないか。普通科と職業系専門学科の連携の中で、滋賀県ならではの新しい構想があると面白いのではないか。
- 彦根工業高校が、彦根市や彦根商工会議所等とコンソーシアムを設立した。工業高校の在り方は、大学や企業等とのコラボを視野に入れて考えていく必要がある。
- マイスターハイスクール等を中核にしながら、魅力ある高校づくりを進めていくことも提案すべきではないか。
- 職業系専門高校に入学する生徒は、ものづくりが好きな生徒ばかりではなく、偏差値で振り分けられていると感じる。学力が低い生徒や不登校等でしっかり学べなかった生徒等のための高校を、各地域に設置すべきではないか。その上で、ものづくりが好きな生徒を職業系専門高校に集めてもらいたい。
- 総合学科にはメカトロニクス科といった工業系の学びが設置されているが、選択生徒数は1クラス分くらい。学校間連携がないと、深い学びは難しいのではないか。
- 高校の授業では、知識・技能・学力の向上が第一。その他、様々な教育活動を通じて人間性の育成を図っている。産業界から求められることに留まらず教育している。
- 企業の多くは高校生に基本的社会性を求めており、高校の指導もそれに寄っているところがある。企業が求める人材を育成するばかりでなく、技術指導等も含めしっかりとした人材を育成して売り込んでいく方が、魅力ある高校づくりになるのではないか。
- 産業界が高校生に求めるものと、高校が考えている魅力とが合致していない部分があるのではないか。産業界と高校がお互い話し合い、共通の方向性を持つ必要があるのではないか。
- 滋賀県の産業教育が、社会的な責任を負う人材を育成する状況になっているのか問う必要があるのではないか。全てにおいて時代の最先端の学びがいいというわけではなく、専門人材をどう育成するのかを考えていく視点は重要。
- 従来の職業系専門学科の在り方を踏襲するばかりではなく、Society5.0に対応した人材育成につながる新しい案を打ち出していけるように、今後も産教審と連動しながら高校の魅力づくりの中に盛り込んでいく必要がある。